

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	3472501349		
法人名	医療法人社団 光誠会		
事業所名	グループホーム サンハートホーム		
所在地 (電話番号)	東広島市福富町久芳3694-12		(電話) 082-430-1321
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成22年3月26日	評価確定日	平成22年4月16日

【情報提供票より】(21年11月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	6.0 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (<u>無</u> 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,070 円	

(4) 利用者の概要(11月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1		名	要介護2	5 名	
要介護3	2 名		要介護4	2 名	
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 85.8 歳	最低 78 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	末永医院・早志歯科診療所・久芳診療所
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は地元の町並みや山や川、近くには新しく整備された河畔の公園などが存在する静かで心休まる環境の中に立地している。ホーム内では、利用者の方がそれぞれ自分の思うままに行動し、職員はそれらに沿って支援を行っている。職員は笑顔で明るく、利用者の方の表情も穏やかで、一日がゆったりと流れ心静かに過ごして頂けるように職員全員が日々努力を重ね、奮闘しながら利用者一人ひとりにあった支援に心がけられている結果であることが伺えた。開所時より利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入ができるように、安全に配慮して門やフェンスを設置しないなどの工夫をしている。目新しさよりは改善の積み重ねを行いながら、従来からの介護を少しずつ改善して、利用者の希望に一步步近づけることに努められている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、理念の共有と日々の取り組みについて、日々の中で話し合いや確認を行いながら理念を具体化していくことが期待されていたが、その後ミーティングや申し送り、関わりの振り返りの時にも、理念に必ず触れ、確認し合いながら具体的なケアについて意見の統一を図っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で話し合った結果を基に、管理者が中心となって作成した。自己評価の結果は職員全員に周知が図られているほか、今回の自己評価ならびに以前の外部評価は、外部の人も閲覧できるようホームの玄関前に置かれている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的実施されており、家族、地域住民、地域包括支援センターの職員などが参加し、会議では事業内容や職員の研修報告、感染症予防対策など、詳細な報告がなされ、意見・情報交換の場として活かされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>運営推進会議や家族の訪問時には、意見や要望を聴くように心がけている。また、日々の暮らしぶりを伝えることで不安への解消に努めている。出された意見や要望などは、今後の取り組みに反映させ、活かされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の何々したいというニーズの実現のために、あらゆる機会を捉えながら、ホームの生活圏の中にある地域資源との関係作りに取り組んでいる。日常的には、利用者職員がともに地域の行事に参加したり、近隣に散歩や買い物などに出かけ、挨拶を交わしたり話をしながら、交流を深めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には事業所の開所当時の思いが込められており、個人の意思を尊重し、本人の持つ能力を活かして安心・安全・楽しく生活を送ることを目標としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はカンファレンスの際などに理念について考え、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が何時までも地域とのつながりを待ち続けるために、地域の行事等には利用者とともに積極的に参加しながら接点を持つ努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員間で話し合った結果を基に、管理者が中心となり、作成した。自己評価の結果は全職員に周知が図られているほか、今回の自己評価ならびに以前の外部評価の結果は、外部の人でも閲覧できるよう玄関前に置かれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族代表、地域住民、地域包括支援センターの職員が参加し、会議では事業所側から事業内容や感染症予防など、詳細に報告がなされ、意見・情報交換の場として活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口とは、お互い情報を交換し合うなど常に連携が図られており、事業の取り組み状況等について市から事業所への働きかけもなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月カラー印刷のサンハート便りを発行し、利用者家族へ発送している。事業所内の様子や外出先の様子、地域の行事の内容などが写真入で紹介され、日々の暮らし振りが感じられる内容となっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の訪問時には、積極的に意見や要望を聴いており、出された意見や要望等はミーティング等で話し合い、反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、馴染んだ職員が代ることによる利用者の不安に配慮し、働きやすい職場環境に配慮しながら定着化を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所として職員育成に熱心に取り組んでいる。研修に参加した職員は内容を報告し、周知に努めることでサービスの質の向上に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所外の勉強会や研修会に積極的に参加することで、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には事前調査にて状況を把握し、家族からの協力を得て早い段階から馴染みの関係を築いている。入居に際しては、見学に来てもらうことで事業所の雰囲気を感じ取ってもらい、本人の納得を得た上でサービスを開始するよう努めている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者一人ひとりの古い記憶・刻まれている記憶を活かして、利用者自身ができることは可能な限り行ってもらうながら、利用者と職員が日常生活を共に支え合うことを支援の基本姿勢としている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の面談で、本人の生い立ちや暮らしぶりの情報を具体的に提供してもらうことで、思いや意向の把握に努めている。また、職員は利用者の話に耳を傾け、意思疎通が難しい利用者についても、出来るだけ思いを汲み取るよう、家族の協力も得ながら、本人本位の対応をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成に際しては、利用者本人や家族、関係者が加わり、今までの生活歴や暮らしの様子など、具体的な情報に基づき、利用者本人やその家族の希望を聞いたうえで、利用者本位の介護計画が作成されている。また、支援内容には事業所スタッフだけに留まらず、家族もチームに参加することで、共に協力し、一緒に介護を乗り越えるプランが作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的あるいは状況の変化に応じた見直しが実施されている。また、利用者一人ひとりの介護計画の作成を通じて状況の変化を日常的に捉え、現状に即した介護計画につなげている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族の意向を基にかかりつけ医を決め、通院や受診の支援を行っている。また、事業所の協力医療機関とも連携が図られ、検診などでも協力を得ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて、本心をチームで話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳を守るため、日常生活においては、さりげなくプライバシーへの配慮に努め、利用者の前で大きな声を出さないなど、相手の気持ちを損なわないように努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な生活の流れの中で、利用者は自由に生活しており、職員は一人ひとりの生活のペースを尊重した支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
生活の					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の状況に合わせて、例えば刻みやトロミをつけるなどの配慮がなされ、職員もさりげなく声かけや介助を行うなど、利用者を尊重した支援が行なわれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の状況に合わせてながら、安心、安全を心がけている。その他、利用者の健康状態に合わせて足浴を実施したり、汚れなどの状況により随時入浴の支援を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌や塗り絵、体操など、日常生活の中に楽しみごとを設定し、気晴らしの支援に取り組んでいる。また、敷地内には畑があり、農作業が好きな利用者が野菜づくりに関わるむなど、利用者の生活歴や能力を活かせるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブなどのほか、近くへの散歩に出かけながら、日常的な外出支援を行っている。外出が困難な利用者についても、天気の良い日はベランダに出て外気浴を行うなどの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出ていく気配を職員が見落とさない見守りや連携プレーで鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災訓練を地域の方も参加して実施し、地区の消防署からも指導等の強力を得ている。また、現在ホーム内にはスプリンクラーの設置工事中のほか、災害が起きた際の消防署への直通連絡や各職員への自動連絡など、防災システムも確立されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時のお茶や15時のおやつなど、捕食の時間を設けることで水分や栄養分の摂取補助に努めている。食事や水分の摂取状況は具体的に記録され、利用者個人のファイルに管理されている。		
15 (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、小物や写真などがさりげなく自然な飾りつけがされ、一般家庭のリビングルームと同じ雰囲気が感じられる。ホーム内は不快な音や臭いは感じられず、採光もよい。事業所全体がバリアフリー構造となっており、随所に手すりが設置されるなど、安全面に配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた物や家族の写真などを持ちこむことができ、居心地よく過ごしてもらうよう配慮されている。また、家族が来所した際は、気遣うことなく居室で一緒に過ごすことができるよう、プライベートにも配慮されている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム サンハートホーム

評価年月日 22 年 3 月 12 日

記入年月日 22 年 3 月 26 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 松浦フミ子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	住み慣れた地域の中で、入居者が安心して楽しく暮らすことが出来るようにホーム独自の理念を作っています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を常に意識して、個別ケアに努め、入居者の明るい笑顔が見られるように努めています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホーム内の行事を地域の方に公表し、参加して頂くようにしています。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	行事やボランティアの依頼、避難訓練への参加等の声かけをしています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域主催の敬老会への参加、アクアフェスタ等の地域行事に参加し、交流を図っています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員個人として、地域行事に参加して、地域の高齢者との交流をはかっています。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の評価を見直し、入居者の個別ケアに努め、介護目標を立て、より良い介護ができるようにしています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	トイレ介助を出来るだけ頻繁にして、紙パンツの使用を抑えて欲しいとの意見が出て、定期的に声掛け、誘導の回数を増やしています。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町担当者には、事業所側から連絡をしたり、窓口に向いたりしながら、積極的に相談や情報収集に努めながら、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。			研修の機会を持ちたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	何が虐待か知り、虐待につながらないように入居者の対応等に気をつけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族の方に理解・納得いただけるように説明しています。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	いつでも意見・不満、苦情が言えるようにし、又、苦情窓口も設置しています。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の方が来所された時は、できるだけ報告をしています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情窓口を設けています。運営推進会議に出席していただき意見、不満等を出していただき、前向きに取り組んでいます。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回、職員会議を開催し、双方の意見を出しあっています。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	外出等には、職員を増やすなどしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>幸い、異動・離職が少ない。</p>		<p>あれば、そのように努力するつもりである なるべく情報を共有しておく。</p>
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>講習会等へ参加するよう勧めている。全員が受けられるように案内し、帰っての報告、皆が情報を共有するようにしている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>特養への訪問、交流をしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>勤務時間等のローテーション、仕事内容の交代等、同じにならないようにしている。年1回～2回食事会等を設けている。</p>		<p>特に、ストレス対策はしていない。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>訪問した時等、勤務態度、介護状況を把握、声掛け、お礼、激励をするようにしている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>一人ひとりと、ゆっくりと話せる時間を持ち、職員が得た情報を共有し、対策を話し合い、対処するようにしています。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	担当のケアマネと密に連絡をとったり、必要に応じ、電話や、直接会う等の機会をつくっています。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	職員同士でも話し合い、問題点を探り、速やかに対応しています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族に相談し、見学に来ていただく等しています。入所初日は、一緒に来られた御家族とも食事をともにしています。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、入居者から教えてもらったり、入居者にありがとうの感謝の気持ちを伝えたりしている。また、入居者の尊厳を大切にす言動に注意しています。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の状況、変化等、報告を密にして、不安感を抱かれないようにしています。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	離れていても、家族を身近に感じられるようにしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>開放的に来客を受け入れています。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>お食事の時の、座る位置などの配慮をしています。常に大事に至らないように、早めに職員が間に入り調整しています。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>訪問したりしています。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>月1回、全職員が集まり検討しています。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>必要に応じ、家族や以前おられた事業所等に聞き取りをしています。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>日々、1日2回の申し送り、引き継ぎの際に、職員で情報を共有し、把握に努めています。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	必要に応じ、ケア会議を開き、少なくとも、月1回、職員全員で話し合い、介護計画を立てています。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1回、見直し、計画をたて、必要に応じて、現状に即した計画を立てています。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入浴や更衣等、スムーズに出来た事、出来なかった事や、体調の変化等を記録し、介護計画を立てています。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の保育所・小学校と交流しています。月1回以上のボランティアの受け入れ、運営推進会議に民生委員さんに参加いただいています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	近隣の特養のケアマネと相談し、デイサービスとの交流をしています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ショートステイを始め、地域包括支援センターとの連携をとっています。運営推進会議への参加を通し、意見等を活かしています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	受診時、相談し、場合により往診をしていただいています。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	直接、指示を仰いだり、電話で相談をしたりしています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	電話等でアドバイスを受けたり、往診をしていただいたりしています。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院されたとき、情報交換等しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>御家族と話し合い、対応を相談しています。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>ホームで出来るまでお手伝いをして、かかりつけ医・御家族も含めたチームとして支援しています。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>次の場所が決定するまで、御家族やケア関係者等で、情報交換をしています。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>誇りやプライバシーを損なうような言葉掛け、対応に気をつけています。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>コミュニケーションを通じ、ゆっくり、何度も説明をし、納得や了解を得るようにしています。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>強制にならないよう、入居者のペースに沿った対応をしています。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	御家族と相談し、了解のもとで地域の近隣の美容院を利用しています。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も一緒に食事を摂り、誤嚥等に注意し、明るく楽しい食事に心がけ、個々の好みも取り入れるようにしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おはぎ等、手作りして取り入れています。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の状態に応じ、時間やしぐさを見て、トイレ誘導をしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	安全を優先して、日中の入浴にしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼食後に昼寝、急速、夕食後はそれぞれの方に合わせ、休みたい方、テレビを見たい方、会話を楽しまたい方等に合わせ支援しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	歌を歌える機会やドライブ等の外出等、体調や天候を見ながら多くとるようにしています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	御家族とも相談して支援しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候・体調等を見て、安全を優先してドライブ・散歩等を行っています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	無理のない範囲で、お花見や、お祭りへの外出、イベントへの参加などしています。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、状況を判断し、電話できるようにしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問者は健康上の理由がない限り、自由に受け入れています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ペットから落ちる危険性があるので、畳に変更しました。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	残念ながら、最近、時間帯によって鍵を掛けなければならない状況になっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	その日の勤務者全員で常に、入居者の所在確認をしながら、様子についても、情報交換しながら安全に配慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に合わせ、居室に置けるものを注意し、安全を優先しています。場合によっては、布を巻くなどしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態を常に話し合い、職員の配置や声掛けをして事故防止に取り組んでいます。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	普通救命講習を全員が受講しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を年2回行い、地域の方も参加していただいています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	御家族と必要に応じ、了解、納得を得られるよう、対応策を話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	顔色、食欲の変化、排泄の際の気づき等を、速やかに職員間で共有し、ご家族への連絡や、受診など対応しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変更、症状の変化等を申し送り、記録し情報の共有をしています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分摂取量の記録、排便、排尿の回数などに注意しています。便秘の方には、起床時に水分補給をする等しています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの方の状態に合わせ、口腔ケアの介助、声掛け、見守りを食事摂取後行い、チェックシートに記入しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できる よう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	朝・昼・夕3食と10時・3時のおやつの際の水分摂取量を記録し、献立・残渣物を記録し、1日の摂取量を把握 しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	マニュアル通り、消毒や手洗い、マスク等状況に合わせて 実行しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の 衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	次亜鉛素酸ナトリウムでの消毒や、調理器具の消毒に努 め、食品の賞味期限等にも注意し、使用と管理につとめ ています。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出 入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	敷地への出入は常に開放しています。門や柵もなく駐車 場も近隣の方や、来客が自由に停められるよう開放して います。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等) は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や 季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の風物詩、行事ごと等の飾りつけや、季節の花を飾 っています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	サンルーム、和室等を利用されています。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	御家族の協力を得て、居室には、入居者が使い慣れた日用品や身の回りの品物を持ち込まれています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各室温度計を設置し、常に室温・換気に配慮しています。加湿器も設置しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物全体がバリアフリー構造で手摺りも随所に設置しています。自力での走行、移動ができるようになっていきます。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	特に危険な場合を除いて、おあらかじめ見守りをし、居室への順路の張り紙や、入口の表札をかけています。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に腰掛けられている椅子を置いています。畑があり、庭や畑の草取りをされたりしています。		